

Y K G

Yutaka Kikutake Gallery

YKG/ Yutaka Kikutake Gallery  
106-0032 東京都港区六本木 6-6-9 2F  
6-6-9 2F Roppongi Minato-ku Tokyo 106-0032 Japan  
Telephone +81 (0)3 6447 0500 Mail: info@ykggallery.co  
www.ykggallery.com

NEW  
VISION  
SAITAMA

5

迫り出す  
身体

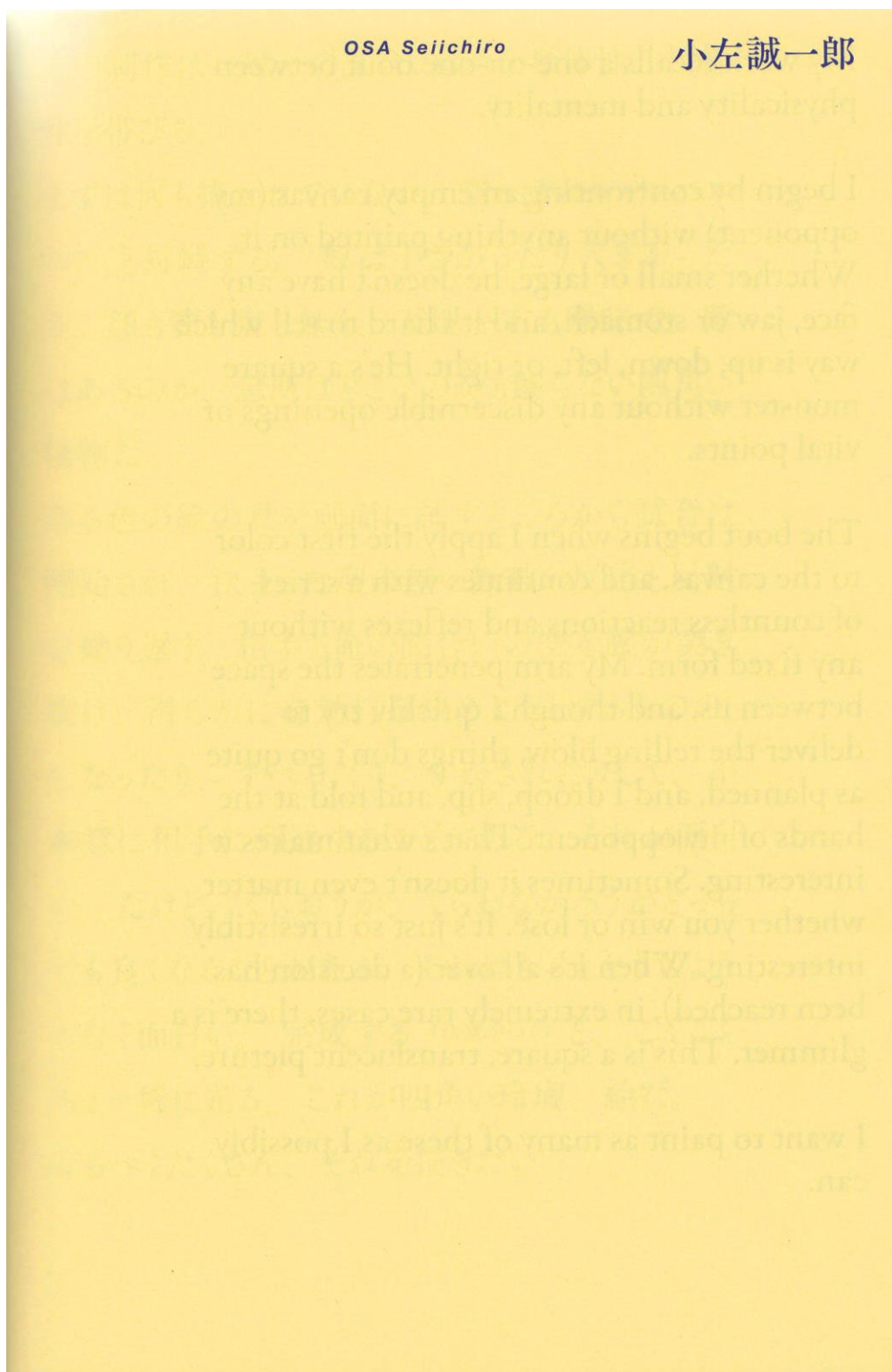
# Y K G

Yutaka Kikutake Gallery

YKG/ Yutaka Kikutake Gallery  
106-0032 東京都港区六本木 6-6-9 2F  
6-6-9 2F Roppongi Minato-ku Tokyo 106-0032 Japan  
Telephone +81 (0)3 6447 0500 Mail: info@ykggallery.com  
www.ykggallery.com

OSA Seiichiro

小左誠一郎



俺の制作は一對一の試合のような身体性、精神性を帯びる。

まずは何も描かれていない、空っぽのキャンバス(相手)と対峙する。奴は小さかったり大きかったり、顔も顎も腹も無く、天地左右も曖昧で、隙はあるのか、急所はどこなのかも解らない四角い怪物だ。

ある色の絵の具を画面に試すところから試合は開始され、決まった型の無い無数の反応と反射を繰り返す。相手と俺の間合いの空を腕が突き抜け、滑らかに有効打を決めようとするものの、しなったり、すべったり、すかさされたりして、不本意に相手に到達することがある。それが面白い。だけど、くらおうが、くらわなかりょうがどっちでも良くなることがある。それはもっとどうしようもなく面白い。完成する(決着がつく)と、ごくごくちょー稀に光る。これが四角い玲瓏、絵だ。  
なるべくたくさん、それを描きたい。

My work recalls a one-on-one bout between physicality and mentality.

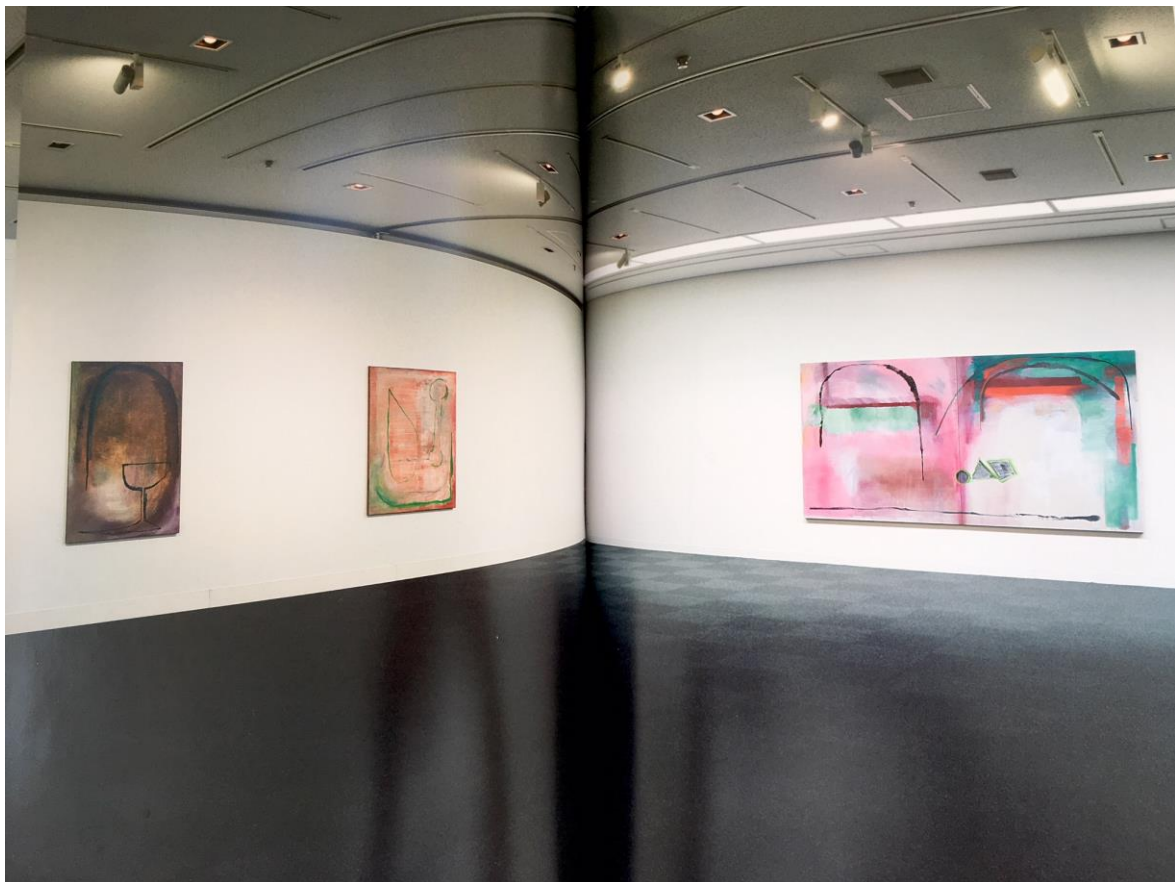
I begin by confronting an empty canvas (my opponent) without anything painted on it. Whether small or large, he doesn't have any face, jaw or stomach, and it's hard to tell which way is up, down, left, or right. He's a square monster without any discernible openings or vital points.

The bout begins when I apply the first color to the canvas, and continues with a series of countless reactions and reflexes without any fixed form. My arm penetrates the space between us, and though I quickly try to deliver the telling blow, things don't go quite as planned, and I droop, slip, and fold at the hands of my opponent. That's what makes it interesting. Sometimes it doesn't even matter whether you win or lose. It's just so irresistibly interesting. When it's all over (a decision has been reached), in extremely rare cases, there is a glimmer. This is a square, translucent picture.

I want to paint as many of these as I possibly can.

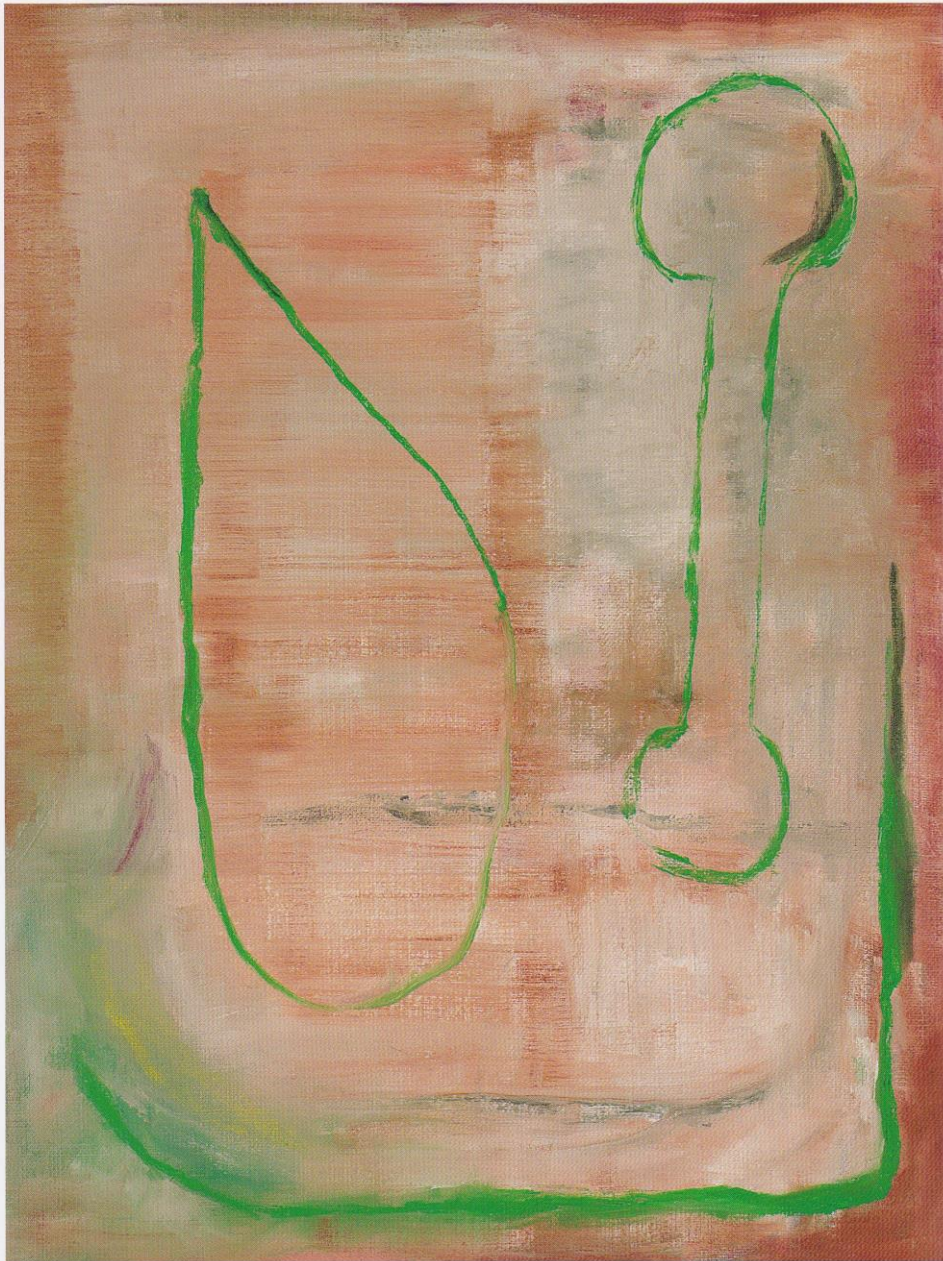


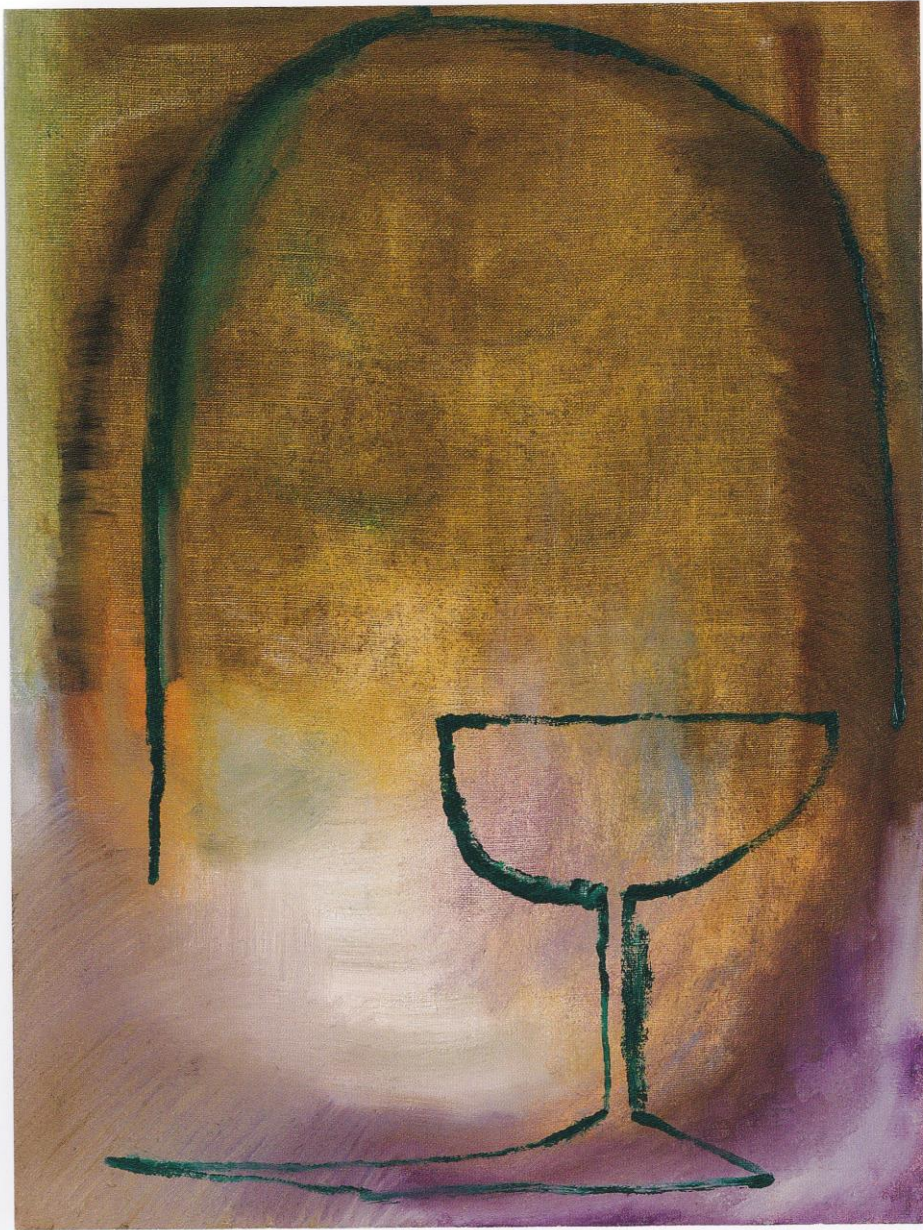




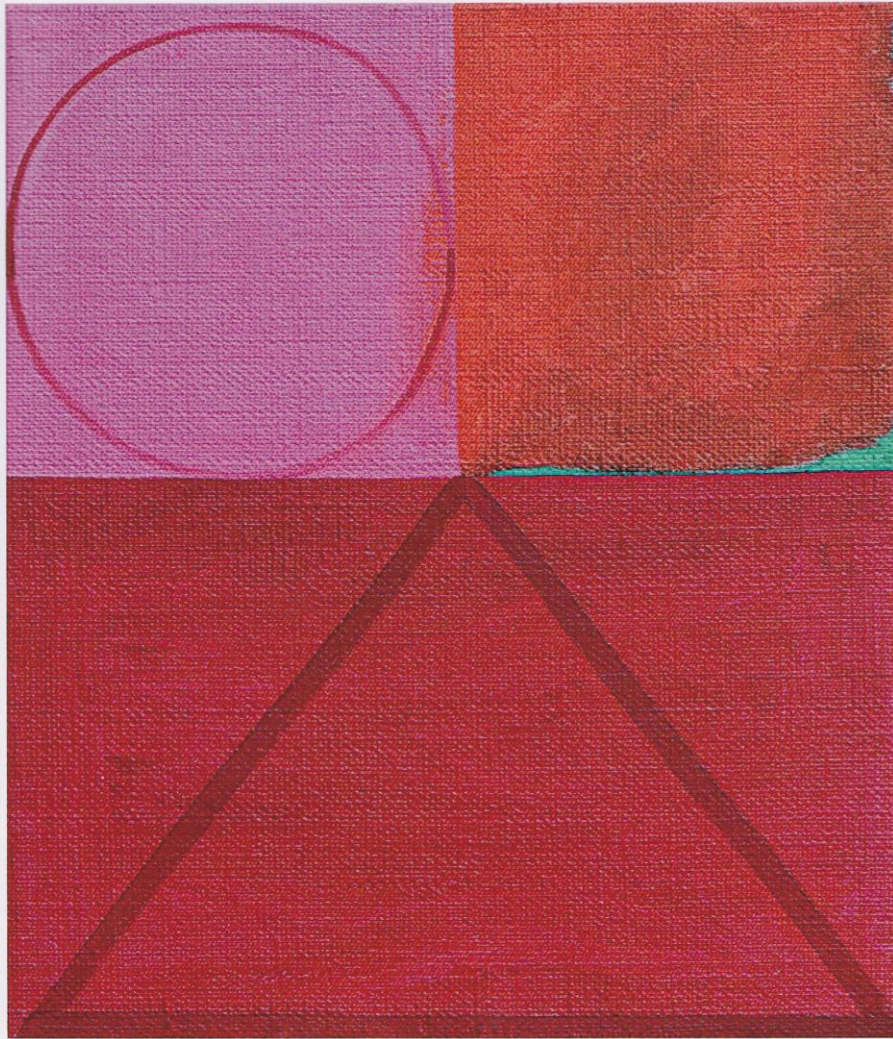








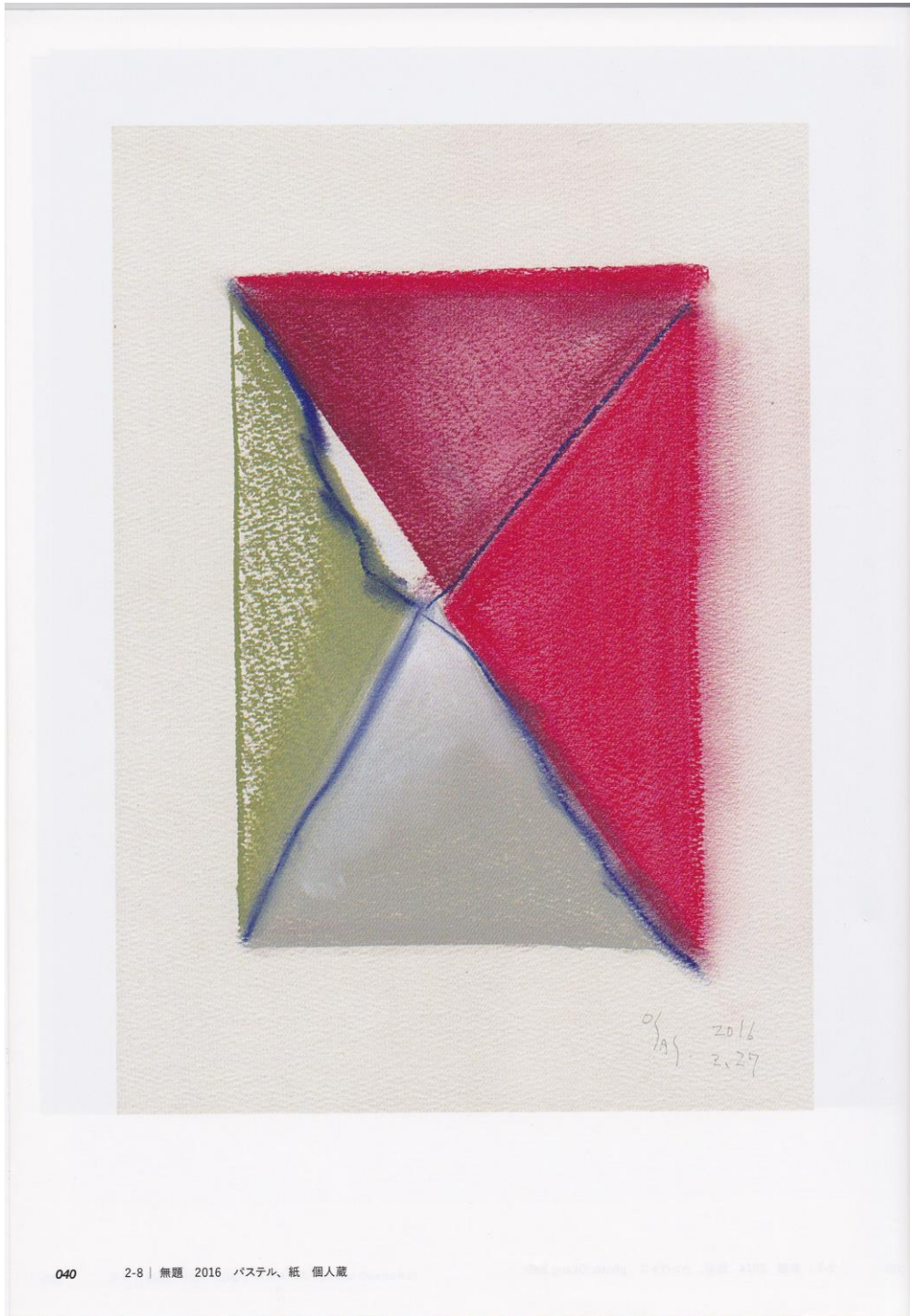














## 小左誠一郎

画家が絵筆でカンヴァスに触れるとき、絵筆を握る手もまたカンヴァスから触れ返される。カンヴァスは画家の行為を受け容れるだけでなく、能動的にはたつきかけもする。多くの描き手に共有されているだろうこの相互作用（例えば、抽象表現主義の画家バーネット・ニューマンは以下のように語っている。「ちょうど私がカンヴァスに触れるように、カンヴァスも私に触ってくる。」）は、小左にとってとりわけ重要な制作の基軸となっているように思える。

このことは、第一に小左が選択する支持体から明らかになるだろう。本展に出品されている新作の数点（pp.32-33）には、ドンゴロスのような織りの粗い麻のカンヴァスが用いられている。木枠に張られたカンヴァスは、固く平滑なパネルやボードとは異なり、画家の手に直に伝える弾性を持っているが、小左が採用する麻のカンヴァスの荒々しい表面は、そうした弾性に加えて、一つ一つのタッチやストロークにあからさまな抵抗を生み出す。

「[支持体の]滑りがよすぎると、引きたい線が普通に引けてしまう。それが、ものすごくつまらない」と語る小左にとって、描画しようとする意志と、恣意的なコントロールの埒外にある作用とのせめぎ合いこそが、制作の重要な起点なのである。

この半ば偶然で不随意的な相互作用は、現在のところ、小左の画面から要素を切り詰めていく方向にはたらいっている。小左が抽象絵画を制作の中心に据えたのは2011年以降だが、当初は、予め決めた形を、画面全体に繰り返し描く作風をとっていた。今回の展示作の中では最も早い時期に制作された《無題》（p.38）は、アンバーの背景に五芒星のモチーフを繰り返し描いたものだ。伸びやかな地塗りと規則的な直線の反復のみで構成された画面は、モダニスティックでミニマルな表現を類推させるものだ。抽象の基本的な表現言語への目配りをアイロニカルに示唆しつつ、しかし、反復された図形のフリーハンドならではのわずかな差異や揺らぎが、冷たい抽象とは異なる温もりや息遣いを感じさせる。

一方、直近の作品では、規則正しいパターンは姿を消している。最新作である100号2点組の大作（pp.30-31）では、構成要素は大きな三本の弧と、画面下部を走る一本の直線にまで切り詰められているが、最小限の直線と弧で構成された画面は、描き手の意思よりもむしろ偶然性や不随意性を強く印象づけるものだ。画家が「線を引かされちゃったな、という感覚」により鋭敏になり、自らが扱う媒体への全き確信をもって、全身、全感覚を用いて媒体と交感した帰結として、この豊かな平面は生み出されているのである。

1985 静岡県生まれ  
2009 東京藝術大学美術学部絵画科油画専攻卒業  
2011 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻油画修了  
埼玉県さいたま市在住

## 活動歴

### 主な個展

- 2013 「Pretzel Logic」 Gallery SPES-LaB、東京  
2014 「SLASH / square」東京オペラシティアートギャラリー gallery 5、  
東京  
2015 「小左誠一郎 個展」 Galerie Tanne、東京  
「Spotlight #2 "Seiichiro Osa"」 Craft / 青山モデルルーム・オフィ  
ス、東京  
「E-CUS project / Cotton #02 SEIICHIRO OSA」 Cotton、埼玉  
「TRANS ARTS TOKYO 2015『SEIICHIRO OSA』」長島ビル4F、  
東京  
2016 「E-CUS project / uzna omom b one #02 SEIICHIRO OSA」  
uzna omom b one、東京  
「E-CUS project / Cotton #09 SEIICHIRO OSA」 Cotton、埼玉

### 主なグループ展

- 2010 「NEO NEW WAVE:Part1」 island、千葉  
2011 「SHIFT--311 / 3.11以降の7人の現代アート」 ART CAFE、広島  
「土土土工」 TURNER GALLERY、東京  
2012 「TURNER MUSEUM vol.1」 TURNER GALLERY、東京  
2013 「TURNER MUSEUM vol.2」 TURNER GALLERY、東京  
「第二回マントル」 NANZUKA B2F、東京  
「第七回マントル」 SELECT SHOP ANDERCURRENT、東京  
2014 「絵画の在りか」東京オペラシティアートギャラリー、東京  
「EL COCO LOCO / HARVEST FESTIVAL 2014」 ROCKET、東京  
「JAPANESE PAINTING NOW !」 Kunstverein Letschebach、  
カールスルーエ、ドイツ  
「JPN Joy, Place, or Not」 Sprout Curation、東京  
「PAINTING DIG」 現代HEIGHTS、東京  
2015 「魚の骨」 3331 Arts Chiyoda アキバタマビ21、東京  
「HIGASHIOMIYA ART FESTIVAL 2015」 活きの魚政、青果マルブ  
ン、東大宮コミュニティセンター 2F体育室、埼玉  
2016 「よい子わるい子ふつうの子 (あるいはヤンキー、モンキー、ドンキー?)」  
TALION GALLERY、東京

## 参考文献

### 展覧会カタログ/リーフレット

- 『絵画の在りか』公益財団法人東京オペラシティ文化財団、2014年、  
堀元彰(作品解説) (図版) pp.92-95



141 小左誠一郎

Seiichiro Osa, Group Exhibition "The Emerigng Body", 17 Sep - 14 Nov, 2016,  
The Museum of Modern Art, Saitama